

観光学実習(空港) I

科目ナンバリング TOS-201
選択 2単位

宮崎 弘基

1. 授業の概要(ねらい)

本実習は観光学を「より身近に」「より幅広く」「より主体的に」学ぶことを目的とし、現場に出ることを率先して行います。そのため、現場にて様々な問題発見とその解決法を体感できる講義となります。

本実習では、日本における国際線・国内線の基幹空港である、羽田空港と成田空港にて行う予定です。

学外実習では、航空会社の現場での取り組みを学ぶことにより、航空業界への理解を深め、加えて現地では専門家をゲストスピーカーとして招聘し、現場でしか学べない情報や知識を得ることを目指します。

2. 授業の到達目標

- ①主に航空会社の空港業務や、関連会社の現場での役割が理解できます。
- ②機内サービスに関連する基礎的な知識や考え方、問題点について理解ができます。

3. 成績評価の方法および基準

出席は必須です。特に本実習は学外実習を中心とする授業であることから、学外実習(計2回)を2回欠席すると単位は与えられません。

授業で実施するレポート提出(2回で評価割合40%)、グループワーク等への積極的な参加(評価割合20%)、プレゼンテーションの内容と完成度(評価割合40%)により評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは特に指定しないで、適宜資料を配付します。

5. 準備学修の内容

本実習は主に学外実習を中心としているため、学内とは異なり、個々人のより強い責任とマナーが求められます。また、羽田空港と成田空港については事前に勉強しておいて下さい。

6. その他履修上の注意事項

学外実習、学内でのグループワークなど、出席は必須です。また、本実習は現場での実習を伴うため、少人数制での開講とし、受講者の上限は10名をめどとします。なお参加希望が多い場合には抽選で決めます。

学外実習の訪問先や訪問日時、集合場所などは初回の講義内で案内するため、原則、第1回の講義(オリエンテーション)に出席しなければ履修はできなくなります。また、学外実習における交通費等の費用は学生個人の負担となるので留意して下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション(受講者選別)
- 【第2回】 研究テーマの選択とグループ分けの検討①
- 【第3回】 研究テーマの選択とグループ分けの検討②
- 【第4回】 グループごとの研究内容の確認①
- 【第5回】 グループごとの研究内容の確認②
- 【第6回】 学外実習(空港施設見学①)ー空港(LCC)の現場を見る(予定)
- 【第7回】 施設見学レポート提出①・研究資料の調査と作成①
- 【第8回】 研究資料の調査と作成②
- 【第9回】 研究資料の調査と作成③
- 【第10回】 全体での討議(中間発表)
- 【第11回】 学外実習(空港施設見学②)ー空港(国内線と整備場)の現場を見る(予定)
- 【第12回】 施設見学レポート提出②・研究資料の調査と作成④
- 【第13回】 グループごとの研究発表①
- 【第14回】 グループごとの研究発表②
- 【第15回】 全体総括